

所属と氏名：東京大学大学院農学生命科学研究科 応用生命工学専攻
酵素学研究室修士二年 伊藤創平

研究テーマ：超好熱菌由来 ADP 依存性ヘキソキナーゼの結晶構造解析

始めに： 私は99年の7月から8月にかけて共同利用のお手伝いをさせていただきました。アシスタントの期間中は坂部先生を始め多くの先生方、共同利用者の方々のお世話になりました。また CCD カメラの搬入と試運転、2000年1月1日運転開始予定と噂だった BL6C 初の、上と下が繋がっている不思議な反射イメージを見ることが出来たりして大変刺激的な良い経験が出来ました。



第二の重原子置換体を得るのに苦労していた自分の研究のほうでは、アシスタント中の実験で良い重原子置換体(Xe)が得られ、2重3重の意味で感謝しています。現在 native の構造がほぼ解けたので基質を入れて基質結合部位と構造変化の解析を行いつつ論文の構想を練っているところです。

アシスタントになってしまった理由と高エネ研での生活： 私の所属していません研究室は、幾つかの酵素で分子置換法による結晶構造の解析には成功してはいましたが、まだ新規の構造を解いた実績のない構造解析においては経験の浅い研究室です。そこで助教授の若木先生と助手の伏信さんにアシスタントとして生け贄にされてしまった次第でありました。東京独り暮らしで当然車など持っていない私は”筑波高エネ研に乗り込むなんて死にに似たようなもんだ”と高エネ研の人に言われ最初は不安でした。しかし幸いにも自転車に乗ることと田舎の田園風景をぼ~っと見つめるのが大好きな私は予想以上に快適な生活ができました。TARA ハウスの裏のお花畑も都会生活で私の荒んだ心を潤してくれました。もちろん五十嵐先生を始め多くの先生方、相棒の姫工大の須藤さんが食事の旅に、いや度に車を出して下さり、体育館で遊んでくれたりしてくれたことも快適生活の大きな要因でした。感謝しております。後輩のみなさんへのメッセージ： 高エネ研の先生方は、アシスタント遅刻記録を更新し迷惑ばかりかけてしまった私にでさえ”よく頑張ってくれた”と声をかけてくださる心の広い方ばかりです。こんな私でもなんとかアシスタントをやれたので、きっとどんな人でも立派なアシスタントになれることでしょう。よい経験にもな

りますので是非やってみましょう！提案と希望： ビームラインのマニュアルを冊子にしてしまうと紛失してしまう可能性がありますので、装置にもよりませんがその付近の壁にでも簡易マニュアル&注意点が張り付けてあると非常に便利かつ事故も少なくなり新規の利用者にとって大変手助けとなるのでは、と素人考えで思うのですがいかがなものでしょうか？最後に： 機会があればまたアシスタントをしたいと思っていますので、その節はよろしくお願いします。